



西新潟中央病院

NST NEWS 第70号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2020年2月4日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1304

NSTミニレクチャー第44回 ～ 経口摂取のすすまない認知症患者さんのなぜ ～

月に1度の栄養の勉強会、NST ミニレクチャーのコーナーです。今回は、6病棟副看護師長 認知症看護認定看護師の風間さんに経口摂取の進まない認知症患者さんへの対応についてお話を伺いました。

認知機能低下と食事の関係

認知機能の低下は、食事の場面において広く影響を及ぼします。スムーズに食事が摂れない原因は体調、身体機能の変化、精神面の健康、食事の環境など多岐にわたりますが、認知症の場合に最も困ることは、本人が正確に理由を訴えることが難しいことではないでしょうか。しかし、言葉ではうまく伝えられなくても、何か**サイン**を発しているはず。そのため、周囲の人が食事の時の様子を見て、その理由について色々な面から考えてみる必要があります。



失認と失行とは？

認知症が進行すると、食事を目の前に出されても食べ物と認識できていないことがあります。これは認知症の症状のひとつで**“失認”**というものです。食べ物だと分かっていないため、手でいじったり避けるなどといった行動が見られます。また、食べ物であることは分かるのに食べ方が分からなくなってしまうことがあります。これも認知症の症状のひとつで**“失行”**と言い、箸の持ち方や使い方、食べ物を口に運び嚙んで飲み込むといったごく自然に行っていた動作が分からなくなってしまうことなどがあります。

関わり方のポイント

食事を拒否する認知症患者さんに対しては、食事を提供する際に「美味しいごはんですよ」「好きな〇〇ですよ」などと声をかけてあげてください。また、他の患者さんが食べる様子を見て、食べ物だと認識してくれることもあります。ただし、初対面の人と一緒に食事のペースが合わない患者さんとはストレスを感じる患者さんもいるので見極めが重要です。食べ方を忘れてしまった場合は、さりげなく箸やスプーン、器を手渡し食べ始めを介助すると、食べ方を思い出して食べ始めることがあります。重度の認知症患者さんの場合はおにぎりなど、手でつまめるような形態にすることで摂取可能となる事もあります。

認知症の患者さんに見られる拒食の原因には、このほかにも食事環境によって食事への注意が逸れ、摂食中断するといった事もあるので、患者さんが食事に集中できる環境を整える必要もあります。また、その患者さんがこれまでどのようなライフスタイルでどんな食生活だったかという事も家族やケアマネージャーから情報収集を得ていくことも重要です。患者さんそれぞれに合わせた介助方法を検討したり環境調整を行うことで食べる喜びを認識してもらい、なにより、食事が**明るく楽しく過ごせる時間**となるようにすることが大切です。



《6病棟 副看護師長 風間 剛》

編集後記

NSTでも、認知症によって食事が摂れず、栄養状態の改善が難しい患者さんに遭遇する機会は多いです。

認知症患者さんの対応に困った時は、**認知症ケアチーム (DCT)**に相談しましょう！！

☆DCT ラウンド 毎週金曜日 14時30分～16時15分

※ご相談は 認定看護師 PHS (5361) 又は6病棟まで連絡を！！

《栄養管理室 曾我》